

# 小野高等学校 67回生 修学旅行

## パーランクの作り方

修学旅行2日目に池間島の方々との交流会で行う「エイサー披露」、3日目に沖縄で行う「エイサー発表会」で、使用する太鼓（パーランク）を各自で作成してもらいます。本物の牛の皮を使い、手作りのパーランクを作成しましょう。各自で試行錯誤しながら、工夫してみてください。

苦労して作ったパーランクを使い、クラスで考えて踊るエイサーは、修学旅行の思い出の一つになるはずです。あれこれ考えながら、パーランク作りに取り組んでみよう。（学校ホームページも参考にしてください。）

材料・・・牛革1枚、パーランク胴1つ、紐4m1本、鋏50個（46本使用）、バチ1本。

道具・・・サンドペーパー、ゴム通し又はヘアピン、彫刻刀（丸刀）又は千枚通しやパンチ、ドライバー（大きめ）  
ペンチ（先の細いもの）、金槌、カッター、水性アクリル塗料（小:120ml程度で十分）、つや出し水性ニス（小）  
マスキングテープ

### 手 順



サンドペーパーで、胴をしっかりと磨く。

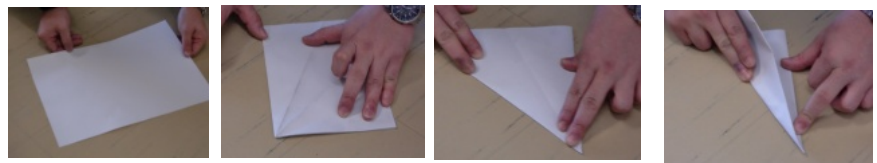
（注1） しっかりと磨かないと、色塗りの時にきれいに仕上げることができない。



牛革はそのままでは硬いので、ゴミ袋などに水を入れて、その中に3～4時間程度浸し柔らかくする。



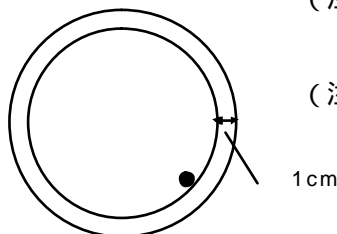
B4用紙などを利用して、牛革の円周に均等間隔で16個穴をあける印を入れるための用紙を折る。



穴あけの印を、牛革の外側から1cmの内側に16個を付ける。（紐を通す穴）

（注1） 16個の穴あけは、 の用紙を利用して均等間隔でつける。

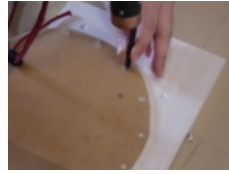
（注2） 穴をぎりぎりに開けると、締め上げ時にちぎれてしまう可能性があるため、1cmの内側に穴を開け余裕を持たせておくこと。



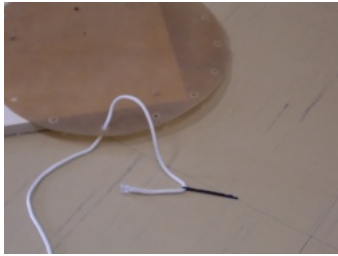


(千枚通し)

彫刻刀(丸刀)又は千枚通しやパンチで穴を開ける。(直径3~5mmぐらい)  
(注1) 下に新聞紙や板、段ボールなどを敷いておく。通す紐の直径が3mm  
あるので、それよりも大きい方がよい。



(5mmのパンチ)

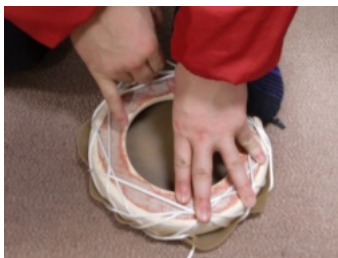


ゴム通しやヘアピンを紐通しとして使用し紐4mを通していく。

(注1) まず1つ目は外側から通し、端を15cmぐらい出して縛っておく。



紐の通し方は、まず1つ目に通した後、次に5つ目の穴に通す。以後、4つ飛ばしで紐を通していく。(1つ目以外は、内側から通した方がよい。)



全部紐を通したら、縛ったところから少しずつ締め上げていく。この作業を数回繰り返して、できるだけきつく締め上げる。締めた後に、ゆるまないように縛っておく。その後、水で軽くしぼったぞうきんなどで牛革全体を被い、1日置いておく。(次の日に行う作業のために、革の柔らかさを保つため。)

(注1) 張った革を叩いてみたくなるが、革が十分乾くまで我慢する。

(注2) あまり革が張れていないように感じて、乾燥すればピンピンに張るので心配しない。

(注3) 最初から強く締めてしまうと、反対側が引っ張られてしまうので、締め上げは少しずつ強くしていく。

(注4) おかしいなと思ったら、 からやり直せばよい。





次の日、左図のように足のかかとで革を踏むことでさらに革をのばす。その後、さらにドライバーなどの先を利用し、きつく締め上げていく。この作業を数回行う。(紐が穴をこすらないように、ゆるんだ紐を全て通してから革をのばすように引っ張る。)

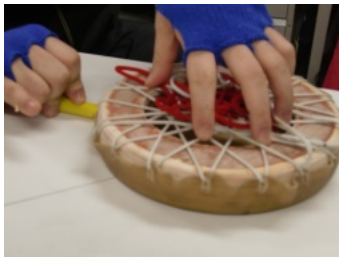


(注1) 足で踏むと破れるような気がするが、しめった状態の革は強いので心配しない。



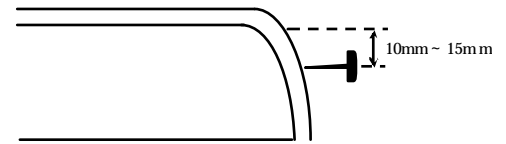
締め上げて余った紐を切り、左図の赤い紐のように利用して最後の締め上げの仕上げを行う。

赤い紐は、締め上げた白い紐を中央に寄るように締め上げている。(特に決まりはないので、自由な発想で図のようになるようにやってください。)



鋳を打つラインを、目立たない色(黄色など)で書く。

(注1) 鋳を打つために引くラインは、下図のように1~1.5cm辺りに一定の高さになるように工夫する。



で引いたライン上に鋳を打つポイントを、1.5cm間隔にボールペンなどで印をつける。



ペンチ(先の細いもの)で、鋳をつまみ金槌でポイントに打っていく。

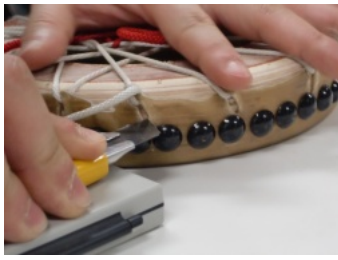
(注1) 基本は1.5cmのポイントで打っていくが、最後10個分ぐらいで、微調整が必要になる。(すべて1.5cmで打てるとは限らない。)

(注2) 金槌で鋳を打った時、鋳の塗装がはげるので、金槌に薄い布を巻くか、ソフトハンマーで鋳を打つことを薦めます。

(注3) 太鼓の側面の革がしめって柔らかい状態の方が、鋳は打ちやすい。



< 鋳の打ち終わり後 >



カッターの刃の先で、切り落とす部分にラインを入れる。  
 (注1) カッターを何かの台(高さ調節のためのもの)に乗せ、一定の高さで切り落とす部分のラインを入れた方が美しく仕上がる。



カッターの刃を大きく出し、ラインに沿って押しながら切っていく。



(注1) 思ったよりも、簡単に裂けるように切れていく。



完成

<切り落とし後>

## 着色作業



革がほぼ乾いた後、色塗り作業開始。まず、胴と革の境目にマスキングテープを貼る。(革や鉄への着色を防ぐため)

着色・ニス塗り

(注1) 着色もニス塗りも薄く、何度も行う方が仕上がりは美しい。

(注2) ハケは毎回洗う方がよい。



(側面・着色)



(裏面・着色)



(ニス塗り)



マスキングテープをはがす。



完成